

心に響く言葉



大事なのは目と耳と歯だ

昨年、サライに掲載された五木寛之さんの「奇想 転画」より抜粋。
 「当面 ボケをいれたための個人的な努力としては、会話をする、本を読む、手作業を多くする、いろいろ対策はないのではあるまいか、大事なのは、目と耳と歯だ。視覚、聴覚、味覚というのがボケをいれたための三大要素だろう。五木さんは、九十二歳になられた。」

お茶の時間



もう12月なのだ。度のもみじが急に赤と黄(きり)今年も富士山 報道 騒がしかったな。

1. あたまを雲の上に出し 四方の山も見下ろして
かみなりさまを下に聞く 富士は日本一の山
 2. 青空高くそびえ立ち からだに雪の着物 着て
かすみのすそを遠く曳く 富士は日本一の山
- 大きな声で歌ってスッキリ。美しい富士山
やっぱり日本一である。今年もあと少しだ。

子どもたちへの贈り物

(NHKラジオ 朝の随想 オーストリア)
 2000年

12月 雪起こしの雷が鳴り出して雪降る季節も間近になりました
 豪雪地守門村の絵本の家の憩いの部屋では今ごろはもう薪ストーブのやわらかな炎が揺らめいている事でしょう。「フウの森」と名付けられた森に佇むとんがり帽子の絵本の家は、そのままの世界です。

私は毎月時間を決めて、小児科病棟に入院している子どもたちを訪ね絵本の読み聞かせをしています。病棟のロビーはその時間だけ「にじのへや」と名付けたおはなしの部屋に変わります。母親にだっこされた赤ちゃんから小学生まで、病室から抜け出られる子どもたちや、その付き添いの家族が集い、笑ったり静かに聞き入ったり時には言葉の響きやリズムに乗って自然に踊り出す子も出たり。すっかりおはなしの世界に入り込んでくると共に楽しいひとときを過ごしています。ベッドから離れられない子どもたちのためには婦長さんの要請で病室まで行き読み聞かせをしています。

いろいろを囲み、または炬燵で暖を取りながら「むかし、昔、あるところに...」と語り継がれてきた民話も身近で聞く機会もなくなり子どもたちの本離れを嘆く声ばかり聞こえてきます。

でも、本を通して子どもたちに関わる私は、子どもたちの豊かな感性を磨くのは他でもない、子ども時代を過ごしてきた大人たちの役割ではないかと思っています。
 98年秋、インドのニューデリーで開催された国際児童図書評議会世界大会でビデオ参加された皇后(現・上皇后)様の基調講演「子どもの本を通しての平和...子ども時代の読書の思い出」を、偶然つけたテレビで拝聴した時その思いは更に深まりました。幼い頃に語り聞かされた本の記憶や、疎開先で読んだ本の思い出、年長の兄の書棚から拝借して読んだ剣豪ものや探偵小説から読書力が得られたことなどを深い感銘を受けながら聞き入りましたが、皇后さまの子ども時代の豊富な読書経験、豊かな感受性は、身近な大人たちが育んでくれたものでしょう。

子が親のひざの上での遊びを楽しむのは長くて7年ほどです。振り返ればそれは本当にわずかな月日です。一冊の本を抱えて親子ともに気持ちをお互いあう時間は、大切に心地よいひとときだと感じたいものです。

「自分の言いたい事を伝えられない子がここの数年で3割ほどになった。ビデオで遊ばせているのが原因。人間の言葉で子を育てよう。と孫が通う幼稚園の園長が話していたそうだよ」と叔父から聞かされました。親しい人間の言葉で語られることによつて、子どもたちの言葉はより豊かに育まれていくことなのでしょう。

私自身、いつも迷ったり悩んだり怒ったりしながら子育てをしてきました。思い起こすと冷や汗も出ます。でも、いつもたつぷり親子でおはなしの世界につかっていたようにどこに出かける時でも本は片時も離れませんでした。
 今、疲れた家族をさり気ない冗談で気分転換させてくれる息子たちは、両親からの贈り物をきちんと受け止めてくれたんだな、と嬉しく思っています。
 クリスマスが近づいています。今年の子どもたちへの贈り物はなんでしょうか？

思いいれこれ

「働くとは倒れを築にすることです」
 96歳でそんなことを祖母の口ぐせ
 今更なることをする、と思いいれこれ
 暮らす日々
 どんな状況にあっても、それか、私には
 丁度良い。
 昔のピンナップを見て何やら又
 元氣をもらった。
 ケセラセラ、なるようにまかす
 なのよ、ねえ

おはなしのじかん
 にじのへや
 にじのへやでまっています。
 どうぞみなさんお出かけ下さい。
 第87回 12月10日(水)午後3時

○なつかし	さとうわかこ さく・え
○じいさとはあさ	かじやまとしお ぶん・え
○クリスマスイブ	マーガレット・W・ブラウン
○十二支のはじまり	いわずききようこ ぶん
○サンタクロースがすねちった	ウテ・クラウゼ

(わらべうたでも、あそびましようね)
 おはなし 子田則子
 次回は 2003年12月24日のよとい

ピンナップ 絵本を読み聞かせる
 子田 則子さん
 病院でボランティア

医師の婦長さんが、朝日新聞記者を院内案内途中、おはなしの会が始まっている部屋に立ち寄り、おはなしの会を20年おめでとうと祝った。資料箱には、雑多なものもギッシリ。

